令和4年度　能美市立粟生小学校　学校評価

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況（中間評価）	評価	今後に向けて	取組状況（最終評価）	評価	来年度に向けて
1	組織的な学校運営	【安心・安全な学校づくり】 全職員協力のもといじめ等の未然防止と早期発見、組織的な対応に努める。	教頭	〈努力指標〉 いじめ・不登校等の未然防止・早期対応にむけたシステムの機能化と、教職員の意識の向上・維持を図る。	情報共有を組織対応に生かすことができた。 （教師アンケート） A：100% B：90%	教師アンケート 児童の見取り、いじめ等記録シートを活用し、未然防止、早期発見・対応に組織的に取り組んでいる。 A：29.4%　AB：94.1%	B	・「児童を見取る視点」についての校内研修を重ね、教師の気付く力の育成を図る。 ・いじめ等記録シートの活用をさらに推進し、情報共有の徹底を図る。	・目標を達成した具体的な児童の姿の共有を通して、見取るスキルの共有が図られている。 ・いじめを積極的に認知し、早期対応と確実な解消につなげた。 A:65%　B：100%	B	・いじめ・不登校等の積極的な認知に加え、情報共有に基づく組織的な早期対応と確実な問題解消につなげるための校内研修を実施する。 ・目指す児童像を主眼においた業務の見直しを行い、教職員一人一人が目的意識と参画意識を持ちながら業務の遂行に取り組めるようにする。 ・校務の平準化につながる校内研修等を計画的に位置づけ、県教員育成指標に基づく人材育成に組織的に取り組む。
		【組織づくり，取組の連携】 学力向上ロードマップを用いてPDCAサイクルを実働させることで、組織的な取り組みを推進させる。	各主任	〈成果指標〉 主任会を充実させ、学力向上ロードマップに基づいた取組状況の確認，検証・改善の協議、共通行動の確実な実践に取り組んでいる。	学力向上RM毛もとに、各分の役割を確認し、遂行することができた。 （教師アンケート） A：役割を果たせた（100%） B：概ね役割を果たせた（95%）	教師アンケート 学力向上ロードマップをもとに、目的意識をもって自分の役割を果たすことについては、さらなる取組の推進が必要である。 A：23.5%　AB：82.4%	C	主任会で学力向上ロードマップを用いて進捗状況等を確認し、職員室内に視覚化することで、全教職員の目的意識と役割意識のさらなる醸成を図る。	主任会において、常に学力向上ロードマップを用いて各業務の進捗状況を確認することで、組織的な取り組みの遂行につなげられた。 A:40%　B：100%	A	
		【働き方改革】 各教職員の専門性を生かし、適切な時間管理を行いチーム学校として最善を尽くす。	教頭	〈努力指標〉 ・月2回の定時退校日に加え、各自が自主的な定時退校日を計画的にとる等目標達成のための工夫をする。 ・学力向上ロードマップをもとに、役割分担の明確化と業務の平準化を図る。 ・校務にクロームブックを活用し、効率化と多忙化改善につなげる。	勤務時間の短縮ができた （教師アンケート） A：十分できた（100%） B：できた（90%）	教師アンケート ・勤務時間短縮に向けた取組については課題が見られる。 A：23.5%　AB：52.9% ・ICT端末を活用した公務の効率化については一定の成果が見られる。 A:41.2%　B:94.1%	C	・年間業務計画表を活用し、計画的な業務の遂行に努められるようにする。 ・個人差解消に向け、業務の平準化、役割分担の見直しを行う。 ・ICT端末の活用方法をさらに広げ、校務の効率化を継続的にすすめる。	・勤務時間短縮に向けた取組については、一定の成果が認められるが、継続的な取り組みの推進が必要である。 A:30.0%　AB：80.0% ・クロームブックの活用が業務の効率化と業務改善につながっており、個人差についても改善傾向が認められる。 A:65.0%　B:95.0%	B	
2	知（学校大好き）	【授業改善】 既習を生かして問題解決すること等を通して、学ぶ楽しさを実感し、自ら考え、みんなで学びを深め合う子を育成する。	研究	〈努力指標〉 ・目標を達成した児童の姿を想定し、目標達成につなげるための学習課題・学習活動・振り返る活動を意識し実践する。 ・学びを生かし問題解決する学習活動を意図的に設定することで、学びを実感さ	実践していた （教師アンケート・週案） A：十分できた（90%以上） B：できた（80%以上）	教師アンケート ・授業の中で、学習活動をさせているが、意識して取り組んでいるか自信は持てない。A：35.3% AB:88.2%	B	・児童と職員のアンケート結果を比較し、目標達成につなげる学習課題を意識できるよう2学期の授業をする。	児童が学習課題を意識したリアウトプットしたりする場面を先生方が意識して設定していた。今後は学習内容（表現）を児童と吟味する場の設定を意識していく。 A:40.0%　AB100.0%	B	・自ら見出した問いについて、主体的に思考したり判断したりできるよう促したり問い返したりすることで、対話を通して目標を達成することのできる授業の実践に取り組む。 ・目標達成にむけて児童が目的をもってクロームブックを活用できるよう、目的意識や相手意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・感受性の醸成と表現力の育成のために、児童が目的をもってアウトプットする活動等を意図的に設定し、読んで得た豊かな表現を活用し、自分の思いなどを伝達することができるようにする。
		【基礎基本の定着】 効果的なICT活用授業を推進し、基礎基本の定着・活用力の向上を図る。	教務	〈成果指標〉 ・目標達成に向けた学習活動において、効果的なchromebookの活用を積極的に進めている（15%／week）。	実践していた （目標点達成率・週案） A：95%以上 B：85%以上	chromebook等のICT活用は効果的だと感じつつ、必要な時をかなりしぼって使用しているところに課題が見られる。 週案上でクロームの使用率15%以上は、C:5B．3%	C	・2学期は職終の後に実践交流の時間を入れる。 ・毎月の活用時間を広め、積極的に活用するよう働きかける。	・全クラスの週案上でクロムの使用率が上がっていることから、職終後の実践交流に効果があったと考える。 ・全クラス1週間で平均31.3%の使用率があった。クロムの使用率15%以上は、B　91.7%	B	
		【語彙力の向上】 読書活動の推進や表現活動の充実を通して、思考力、判断力、表現力の向上を図る。	学習指導	〈成果指標〉 さまざまな読書活動の取組を通して、読書の機会を保障し、児童の豊かな感受性と表現を育成している。	目標達成率 （児童アンケート） A：95%以上達成 B：80%以上達成	児童アンケート ・読書をすることで、自分の表現力が高まっているというところまで実感をもたせるために、まず児童の感受性を育てる取組が必要 A:37.6%　AB:72.5% ・目標冊数達成率90.7%	C	・目標冊数達成率はこのまま維持できるよう働きかけを続ける ・さらに、本にふれ感受性を豊かにすることを大事にできるように、本を読んで「好き」「楽しい」「おもしろい」と思う児童を増やす取組をする。	・読書まつりを入れたことで、低学年の来室する回数が増えた。 ・読書による表現力向上につながる実感はないようだが、少しずつ読書の好きな子が増えている。読書量の少ない子に対する対策を今後も入れなくてはならない。 A:30.3%　AB:72.2% ・目標冊数達成率89.0%	C	
3	徳（友達大好き）	【安心・安全な学校作り】 道徳では、児童の実態に応じた重点内容項目を設定し、自身の考え方や行動などを見直すことができるようにする。	道徳推進	〈成果指標〉 各学期に1つ以上、重点内容項目を設定し、他者の考えに触れることで自分自身の考えを見直す場のもてる授業を実践している。	他者の考えに触れた （教師アンケート・週案） A：できた（100%） B：十分できた（半数以上）	道徳チェックシート 教師アンケート ・特別の教科道徳の重点項目の授業において、他者と自分の考えを比較したり自分の考え方や行動を見直したりする学習活動を設定している。 A29.4%　AB85.2%	B	他者と自分の考え、自分の考え方や行動を見直しことができる「発問」の設定について共有していく。	道徳チェックシートより、どの学級も重点内容項目の取り組みは毎学期行うことができた。「発問づくり」のOJTを通して、学習指導要領の内容と照らし合わせた発問の工夫が見られる実践につながった。 A25.0%　AB95.0%	B	・道徳における重点内容項目について、児童の実態をもとに見直すことで、児童の道徳性の涵養に努める。 ・課題、取組方法、検証方法等を児童と共有しながら、自治的な学級活動・児童会活動とする。 ・共感的な人間関係に基づく授業改善につなげるよう、具体的な取組時期・取組方法・検証方法を共有し、確実な取り組みと成果の実感を児童と共有していく。
		【自治・自主の精神の育成】 児童主体の児童会活動，学級活動を通して主体性・協働性を養う。	生徒指導	〈成果指標〉 児童会活動，学級活動等において、伝えること、聴くこと、折り合いをつけること等の資質・能力を育むための指導を実践している。	自分から考え協力して実行することができたか （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート 学級会では、自分のことと学級の友達のことを考え、話し合ったり決めたりしている。 A 51.2%　AB 86.4%	B	相手の意見を最後まで聞いたり、うなずいたりするなど、共感的人間関係の育成を意識した指導を行っていく。	学級会等を通して，自分たちの学級を自分たちで良くしようとする，自治的な話し合いが積極的に行われていた。 A 49.5%　AB 88.4%	B	
		【自己肯定感の高まり】 認め合い支え合う学級集団を土台とし、他者との関わりの中で成長する実感が持てるように日々の授業を行う。	生徒指導	〈成果指標〉 具体的場面を見取り、「粘り強さ」「協力性」「自主性」を積極的に価値づけている。（ほめる、認める、気付かせる）	意図的な手立てを実践した／学級、学校が楽しい （教師・児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート 担任の先生や、そのほかの先生は、視気強く頑張っていること、友達と協力していること、自分から頑張っていることについて、ほめたり、認めたりしてくれる A 55.7%　AB 90.2%	A	授業の中で、生徒指導の3機能を生かす手立てを教員間で共有し，意図的に実践していくことで，児童の自己肯定感を高めていく。	全職員に「授業に生徒指導の3機能を生かすための自己点検カード」を配布し，毎月集約，分析をすることで，職員の児童への働きかけを見直す機会となり，児童の自己固定感を高める実践を行うことができた。 A 48.4%　AB 88.4%	B	
4	体（自分に挑戦）	【基本的生活習慣の確立】 メディアコントロールや就寝時刻が意識できる取り組みを行い、基本的な生活習慣の確立を図る。	保健体育	〈成果指標〉 基本的な生活習慣とメディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に必要なことの理解につなげている。	ルールを守ってネットを活用している （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	基本的な生活習慣とメディアの利用時間が意識できるチェックシートを使い指導した。A:62　AB：81．2	B	それぞれの学年やクラスでの課題を分析して明示し、生活習慣の確立の重要性を指導するとともに、保護者への啓発を行い、協力体制づくりをする。	生活習慣やメディアの使用時間などの意識は保護者への情報共有も加味して向上している。90%以上を目指し、今後も必要性や危機意識、環境の整備への配慮をさらに検討していく。 A:62.5%　AB：88.8%	B	・学級活動を意図的かつ計画的に行うことで、児童が主体的に、健康的な生活について考え実践できるようにする。 ・具体的な想定のもと、実践的な避難訓練を実施することで、主体的に考え判断し、適切な避難行動をとれるようにする。 ・体力面の課題を的確に捉え、児童が主体的に目的をもちながら年間通して体育の時間に継続的に取り組めるようにする。 ・目的をもって主体的に取り組めるよう、家庭学習の内容を工夫する。
		【安全意識の向上】 交通安全・生活安全・災害安全の取り組みを通し、安全意識を高める。	保健体育	〈成果指標〉 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を行い、安全についての正しい理解につなげている。	安全意識が定着している （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	登下校や休み時間の過ごし方の指導、また、火事の避難訓練を実施し、安全意識の向上を図る取り組みを続けた。 A:78　AB：94	A	Aの児童のみで90%を超えるように継続して指導を行う。また、交通安全や廊下歩行についてはアンケートでは見えないが実際には課題がある。そのため油断せずにその都度の指導を徹底する。	概ね意識は定着していると答えている。しかし、廊下歩行や靴の履き方、登下校での安全は子どもが常に留意していると言い難い。浅い意識でできていると考えている視点を今後強化していく。 A:77.6%　AB：95.3%	A	
		【体力向上】 継続的な体力向上の取組を通して、目標を立て粘り強く取り組もうとする心と態度を養う。	保健体育	〈成果指標〉 3分間縄跳びやシャトルラン等の取組で、児童に目標を持たせ、目標に向かって継続的に努力できるよう指導している。	体力向上のめあてを達成することができた （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	学年やクラスにおける具体的な目標を明示して、3分間縄跳びやシャトルランを行った。 A:67．9　AB:93．7	A	現在の記録（到達状況など）を数値的にクラスごとに示し、次の目標を考えさせる。また、努力を重ねるための時間や継続的な呼びかけを行う。	具体的数値による目標の見える化や継続的な取り組みを各クラスで行うことにより、体力向上への意欲・達成感を概ねの児童がもつことができた。 A:62.5%　AB：90.3%	A	
5	家庭・地域との連携	【コミュニティ・スクールの充実】 連携を密にし、活動をより一層充実させることで、地域との連携・協働を推進する。	教頭	〈成果指標〉 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、CSディレクターとの連携システムを構築し、学校支援の充実を図る。	学校支援の様子 （実施状況） A：計画的に行われた B：ほぼ計画的に行われた	授業支援（校区内町探検等）、放課後学習支援を要請し実施することができた。CSディレクターとの連携システムの構築に引き続き取り組む必要がある。	B	・CSディレクターとの連携システムの構築をさらに進め、地域の方々に学習活動に積極的に参加していただける環境をつくる。 ・学習目標の達成に効果的な学習支援の積極的に活用する意識を再確認する。	・CSディレクターとの連携システムを構築することで、適時に学習サポート等を依頼することができた。 ・放課後学習における学習サポートを計画的に位置づけること、学習サポーターを拡充することが今後の課題である。	B	・本年度の活動状況をもとに啓発資料を作成し、さらなる学校サポーターの拡充を図る。 ・コミモン等保護者との連絡ツールを活用し、課題や対応策等を共有しながら、学校と保護者、地域との連携をさらに深めていく。 ・地域の文化や環境を生かした学習活動をさらに推進するため、地域を素材とした校内研修の充実を図る。（CS・保護者との連携を含む）
		【保護者連携】 保護者と児童の課題を共有し、よりよい家庭生活習慣の確立に努める。	教頭	〈成果指標〉 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけた （保護者アンケート） A：90% B：80%	保護者アンケート 各家庭でメディア利用に関するルールを決め守ろうとしている。 A:42.3%　AB:87.6%	B	家庭学習がんばり週間の取組に加え、寺井中地区共通の取組をもとに、児童会主体の活動を促し、自律的な取組としていく。	クロームブックの持ち帰りに伴って、保護者と情報を共有し、必要に応じて家庭でのメディア活用に関わる注意喚起を実施することができた。 A:36.2%　AB:90.4%	A	
		【ふるさと教育の充実】 地域の自然や人材を生かしたふるさと教育を推進する。	教頭	〈満足度指標〉 ふるさと能美市の良さに気付き，地域に貢献しようとしている。	地域貢献に取り組めた （児童アンケート） A：90% B：80%	児童アンケート ふるさとの町をよりよくするためにに、地域に貢献しようとする意識の醸成に今後も取り組む必要がある。 A：47.7%　AB：79.4%	C	生活科や総合的な学習等において、地域の自然や人材を生かす学習活動を積極的に取り入れ、ふるさと能美市の良さを実感できるようにする。	地域の文化や人材等を生かした学習活動を意図的に位置づけることで、地域の文化や自然を大切にしている人の思いに触れたことが、能美市の良さの実感につながっている。 A:46.5%　AB：89.8%	B	

中間評価を受けて
・読書活動の推進について、目標冊数達成率は高い。語彙力の向上につなげるための取組の工夫が今後求められる。
・働き方改革については依然として課題が残る。継続的な業務の平準化への取組に加え、学力向上ロードマップやICTを有効活用し、教育の質を落とさない業務改善につなげていく。
・授業改善については、学校研究の取組と連携し、ICTの効果的な活用の視点を持たせさせながら推進し、児童と成果や課題を共有していくことが重要である。

最終評価を受けて
・自らの問いの解決に向けて、対話を通して思考したり構想したりしながら主体的に学習に取り組める児童を育成するため、広く指導を受けながら授業改善を積み重ねていく。
・地域の文化や人材を生かした学習活動を計画的に実施することで、児童の地域を誇る気持ちや地域に貢献しようとする児童の意識を醸成していく。
・働き方改革については、ICTの効果的な活用を継続するとともに、学力向上ロードマップや校務年間計画などを活用して取組状況を可視化することで、取組の徹底と平準化に努める。